

学校教育目標（具体目標）

- ・健康でたくましい子
- ・豊かな心、思いやりのある子
- ・よく考え、学び合う子



# 柏っこ

令和6年度  
第6号

学校だより

令和6年10月1日  
海老名市立柏ヶ谷小学校  
校長 石井 友紀  
電話 046-231-1630



## 第61回運動会

10月12日（土） 午前8時30分開会 ※雨天順延

ようやく風が涼しくなり、爽やかな秋の気配が感じられます。

いよいよ12日は運動会です。当日に向けて、練習にも熱が入ってきています。



“心が動く”体験をたくさんしてほしいと思ってスタートした2学期ですが、運動会に向けた取組の中で、早速さまざまな表情の子どもたちに出会いました。たてわりグループの応援を楽しそうにやっている顔。リレーの選手になり、緊張した顔。転んでも痛みをこらえて走る顔。走る友だちに声をかけて応援する顔。どの表情も生き生きとすばらしく、見ている方も感情が揺さぶられます。一人ひとり違う子どもたちが、それぞれの思いや気持ちを互いにぶつけ合い、心が動く豊かな経験を重ねることができるのが、学校で共に学ぶ良さだとあらためて思います。今年の運動会は、学年種目の他に、たてわりグループ種目「カラフルタイフーン」も行います。違う学年の友だちともかかわり合い、それぞれの良さを生かしながら頑張してほしいです。

運動会という大きな行事を、子どもたちと力を合わせて創り上げていきますので、当日はあたたかい声援をよろしくお願いいたします。よい天気になりますように！

9月26日（木）、除草作業を行いました。暑い中、30分ほどの作業でしたが、みんなの頑張りで驚くほどたくさんの草を取ることができ、校地がきれいになりました。ボランティアで参加してくださった保護者の皆様、ありがとうございました！

### 数多くの「心情表現」を獲得しよう ～ことばの教室から～



最近子どもたちの表情が乏しくなっていると言われていています。「語彙力の低下」がその一因になっているのではないかと考えられています。その中でも「子どもたちが口にする感情表現のバリエーションが少なくなっていること」が、問題視されているようです。

言葉は人が感情を表す重要な手段の一つです。だから、手持ちの感情表現が豊富なほど、表情として表出される感情も豊かになるのではないのでしょうか。たとえば、負の感情について、「キモい」「ウザい」「ムカつく」……といった「決まり文句」を反射的に連呼するような子どもはいないのでしょうか。子どもに限らず、大人でもこのような定型句を連呼する人は大勢いるように感じます。

「ウザい」という言葉を例示しましたが、この表現にはそのときの状況や気持ちの細かな違いによって、その「近似値」となるいろいろな心情語が存在しています。「いまましい」「鬱陶しい」「うんざりする」「げんなりする」「小憎らしい」「癪に障る」「鼻につく」「不快だ」「迷惑だ」「わずらわしい」などがそれにあたります。

- ① トイレの壁に貼ってある日本地図、ウザいからはずしていい？
- ② 家に帰るまでが修学旅行です、なんて校長先生がまた同じ話をしたのでウザい。
- ③ 弟は、年下のくせに姉の私に生意気な口を利くのでウザい。



上の3つの文には、どれも「ウザい」という表現が使われていますが、それぞれの気持ちは異なります。この場合、①は「鬱陶しい」、②は「うんざりする」、③は「小憎らしい」などといった感情表現がぴったりきます。何でもかんでもマイナス表現を「ウザい」と発することで済ませてしまうと、その時々微妙な心情を表す言葉が使えなくなってしまいます。子どもだけでなく大人も、つい「キモい」「ウザい」「ヤバイ」といった言葉を連発してしまう場合が少なくありません。まずは、大人が心情語を意識して話すことで、子どもたちの語彙力を高めてほしいと思います。

参考文献：「わが子に『ヤバイ』と言わせない 親の語彙力」 矢野耕平著

柏ヶ谷小学校のことばの教室が毎月発行している「かしのことば」9月号から引用させていただきました。子どもたちと話すとき、ことばを意識して話すよう、心がけていきたいと思えます。

